

Tachyon

[タキオン]



なかにし礼氏によって作詩された公立小松大学校歌のタイトルは「光より速きわれら」。ときに光速をも超える思念やインスピレーションが本学学生・職員の spirit から発せられるよう念願し、本誌のタイトルとして選んだのが「タキオン」(Tachyon)である。Tachyonは、未だ確認されていない粒子であるが、光より速い速度をもつとされ、ギリシャ語の「ταχυς (速い)」を語源とする。

学長 山本 博
(図出典: Institut for teoretisk Fysik)

こまつから未来へ
公立大学法人
公立小松大学

We Enjoy
Campus Life
中央第2キャンパス
Open!



@学生ホール

01 中央第2キャンパス開設!

03 大学TOPICS

05 理事長・学長 退任のご挨拶

06 教員紹介 山田 昭博 臨床工学科 准教授

07 サークルPick Up、キャリア支援

vol. 16

2026.03

公立小松大学 広報誌 Tachyon vol.16 発行日: 2026年3月

発行: 公立小松大学事務局 〒923-0868 石川県小松市日の出町一丁目100番地 ウレシヤス小松4階 TEL: 0761-23-6600

2026年2月~9月

主な
大学スケジュール

2月16日(月)~4月7日(火)

春季休業

3月23日(月)10時~

学位記授与式

@こまつ北電ホール
小松市日の出町一丁目100番地
ウレシヤス小松2階

4月2日(木)10時~

入学宣誓式

@こまつ北電ホール
小松市日の出町一丁目100番地
ウレシヤス小松2階

4月3日(金)

新入生オリエンテーション

4月8日(水)

前期授業開始

7月18日(土)

オープンキャンパス

7月29日(水)~8月7日(金)

前期試験(補講・試験予備日含む)

8月10日(月)~9月30日(水)

夏季休業

10月1日(木)

後期授業開始



サークル Pick Up ダンスサークル



広報室学生委員がダンスサークルを突撃取材!サークル長の澤田楓加さん(看護学科)と不動友渚さん(国際文化交流学科)に話を聞きました。

—活動内容を教えてください。

(澤田さん) イベントで発表する曲を中心に、週2回の活動日にダンスの練習を行っています。

(不動さん) 学科や性別に関係なく、踊りたい曲でグループを組むため、いろんな人と交流ができてとても楽しいです!

—どんなときにやりがいを感じますか?

(不動さん) 自分たちが踊りたいと思った曲を納得がいくまで練習して、イベントで上手く発表できたときに大きな達成感を覚えます。

—ダンス初心者でもサークルに入れますか?

(不動さん) もちろん入れます。ダンス経験のある無しに関わらず、みんな楽しく活動しています。

(澤田さん) 「楽しむことが一番!」という気持ちで活動をしています。「ダンスが好き!踊りたい!」という気持ちがあれば、友達も増えていきます。

—今後の目標を教えてください。

(澤田さん) ダンスと演出の双方にさらに力を入れて、幅広い世代が楽しめるようにしていきたいです。また、外部のイベントにも積極的に参加してサークルの魅力を発信していきたいです!

広報室学生委員による他のサークル紹介についてはこちらからご覧いただけます。



キャリア支援

開学から5年連続 就職内定率100%達成!

令和8年3月に卒業・修了を迎える学部生・大学院生のうち、就職希望者全員が就職先を内定し、全学部・学科(3学部4学科)及び大学院研究科(3専攻)全てで就職内定率100%を達成しました。これで就職内定率は開学から5年連続で100%となりました。

本学のキャリアサポートセンターと各学科の教員が連携し、一人ひとりにより添った、きめ細かいキャリア支援で学生の就職活動を支援しました。

【就職内定者数】217名(内訳:学部生197名/大学院生20名)

【内定した企業の本社所在地及び勤務予定地】県内:約6割、県外:約4割

(参考)北陸三県(石川県、富山県、福井県)では約7割

今後もキャリアサポートセンターでは、キャリア相談や各種イベントを通じて、学生一人ひとりに合わせた支援を行い、自分らしいキャリア選択を応援していきます。

キャリアサポートセンターの取り組みの一例



キャリアコンサルタント
松木 礼子 講師による
キャリア相談



業界研究会



面接練習

キャリア相談 実施中
【相談時間】平日9時~17時
【相談予約】キャリアタスUCから
【問い合わせ】carrier@komatsu-u.ac.jp



講義室 401-403

共通教育から学会発表まで幅広く活用できる大講義室

霊峰白山の雄大な眺めと都市の景観が調和する、快適で開かれた学びの空間です。

1. 2年次の共通教育科目や国際文化交流学科の講義に使用される他、市民公開講座などの大学主催のイベントにも使用されます。



明るく開放的な講義室で
授業に集中できる！

共同研究室 1-3

知が融合し

新たな発見が生まれる創造空間

学部生・大学院生・教員が共に研究に取り組む場。多様な視点が交わることで学びと探求を深める、創造的な空間です。



集中して研究を
進めることができる！

オープンスタジオ 1-3

学生の自由なアイデアで発想をカタチにする

北陸新幹線を間近に眺めることができる多目的室。

解放感のある空間で、学びや交流・創作活動など自由に活用できます。

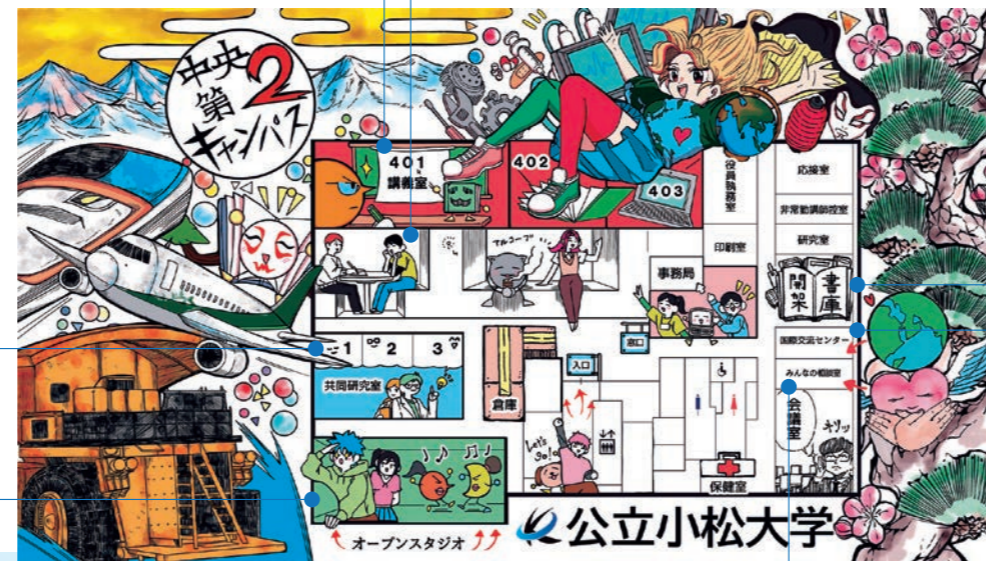


こんなに新幹線駅に
近い大学ってある？！



いろんなアイデアが
浮かびそう！

Campus Map



国際文化交流学科1年 入井 翔大さん作

小松駅から徒歩1分！ 中央第2キャンパス開設！

令和7年10月に開業した小松駅前の複合ビル「ウレシヤス小松」の4階に「中央第2キャンパス」を開設しました。

延べ床面積（共有部分は除く）は約2000㎡。講義室や学生ホール、共同研究室、オープンスタジオ等を備え、学び・交流・研究・創作の多様な活動を深めることができます。

小松駅から徒歩1分という好立地で、学生ホールの大きな窓からは小松駅前の街並みと新幹線の往来が一望でき、講義室からは霊峰白山の雄大な景色を楽しめます。



中央第2キャンパスが入居する複合ビル「ウレシヤス小松」の外観（中央第2キャンパスは4階）

学生ホール

小松駅を望む広々とした空間で学びと交流を深める



入口を抜けるとすぐ目の前に広がる学生ホール。石切り場をモチーフにしたデザインに、大学カラーの青を取り入れ、学びと交流が広がる空間になっています。大きな窓からは小松駅前の街並みと新幹線の往来が一望でき、特別な景観を楽しむことができます。



自主学习やランチなど
自由に使えて、
学びも交流も深まる！

オープンスタジオで開講している市民公開講座等

○公立小松大学市民公開講座 中国語カフェ

教員や留学生とともに、中国語での会話練習を行います。令和8年度は4月～7月で月2回程度の実施を予定しています。



詳細とお申込は
こちらから



○ものづくり人材スキルアッププログラム

ものづくり企業の従業員を対象にした、ものづくりに必要な知識を体系的に学ぶことができる実践的な教育プログラムです。



生産管理技術（Aコース）、工場経営管理（Bコース）の2つの選択コースとすべての科目を履修する総合コースがあります。

詳細とお申込は
こちらから



みんなの相談室

学生や教職員が安心して学び、働ける環境づくりを支える相談窓口。困りごと、気がかりなことを丁寧にお聴きし、ともに良い方向性を考えていきます。



国際交流センター

海外留学や国際交流の相談窓口として学生の国際的な学びの実現を支援するとともに、海外協定校等と連携したセミナーや交流イベントも実施しています。



開架書庫

株式会社伊藤電機様よりご寄附いただいた書籍を中心に、各種資料を備えた図書スペース。静かな環境で落ち着いた学習に取り組むことができます。



公立小松大学 TOPICS 大学

2025年8月～2026年2月

輝く公立小松大生

第43回全日本中国語スピーチコンテスト石川県大会で第2位と第3位にそれぞれ入賞
 第2位 米田 好花さん (国際文化交流学科4年)
 第3位 内田 帆香さん (国際文化交流学科4年)



令和7年度応急手当技能競技会学生部門で優秀賞
 油井 一晟さん、梅下 龍世さん、中田 響月さん(看護学科4年)



第63回日本人工臓器学会大会において萌芽研究ポスター賞を受賞
 新田 亮介さん (大学院ヘルスケアシステム科学専攻 博士前期課程1年)



第1種ME技術実力検定試験に合格
 中村 友香さん、山中 琢弘さん、佐藤 玲実さん(臨床工学科4年)

第1種ME技術実力検定試験とは?
 医療機器 (ME=Medical Engineering) の保守・安全管理についての専門知識・技術を習得しているだけでなく、他の医療従事者に対し機器に関する教育・指導する資質を有する者として認定する資格



2025全日本スカイランニング選手権大会 スカイ種目で優勝 士林ロケットレイル 50km女子部門で優勝
 枝元 香菜子さん (大学院ヘルスケアシステム科学専攻 博士後期課程2年)



「HIT2025」(北陸の高等教育機関によるビジネスモデルコンテスト)で最高賞と名誉賞をダブル受賞
 北山 空さん、加賀度 長虎さん (国際文化交流学科3年)



小松市国際交流協会主催の日本語スピーチコンテストで小松ロータリークラブ賞を受賞
 葉 松銘さん (台湾・建国科技大学より交換留学中)



金沢市と小松市にそれぞれカフェをオープン

赤間 彩花さん(国際文化交流学科4年)
 店名: en.
 場所: 金沢市朝霧台
 リーダーとなり、物件の選定や契約、メニュー開発、運営などに携わる



西森 光さん(国際文化交流学科1年)
 店名: 喫茶MADOI
 場所: 小松市土居原町
 内装や広報、運営などに携わる



★新キャンパス一般見学会&市民公開フォーラム2025「スポーツ医学・工学・ツーリズム」を開催

11/22 (土)

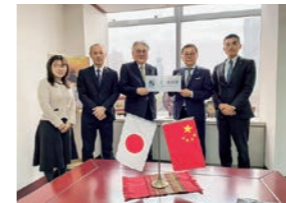
中央第2キャンパスで新キャンパス一般見学会と市民公開フォーラム2025「スポーツ医学・工学・ツーリズム」を開催し、市民や学生・教職員など約100人が参加しました。一般見学会では白山を一望できる講義室や、石切り場をモチーフにした学生ホールなどを開放し、参加者は自由に見学を楽しみました。続いて開催された市民公開フォーラムでは生産システム科学科 酒井 忍 教授、国際文化交流学科 陳 慶光 准教授、看護学科 高木 祐介 教授の3名による講演が行われました。スポーツを工学・医学・ツーリズムの3つの視点から掘り下げる内容で、参加者はそれぞれの講演に熱心に耳を傾けていました。



★新たに上海オフィス(北陸銀行国際部上海駐在員事務所内)を開設

11/24 (月)

北陸銀行と連携協力協定を締結し、その取り組みの第一弾として、中国・上海に本学の「上海オフィス」を開設しました。このオフィスは、北陸銀行国際部の上海駐在員事務所内に設置され、11月24日に、山本学長と谷内特任教授が現地を訪れました。今後は、教員・学生・同窓生の教育・研究活動の拠点として活用する予定であり、本学の国際交流・グローバル展開を加速させる大きな一歩となります。



★国際文化交流学部と台湾の国立台南大学行政管理学科で部局間交流協定を締結

12/23 (火)

国際文化交流学部は台湾の国立台南大学行政管理学科と部局間交流協定を締結しました。国立台南大学は教育学、科学技術など6つの学院(学部)と21の学系(学科)を擁する総合国立大学です。今回の協定締結により、短期研修など、学生間の交流を積極的に展開していきます。



★令和7年度産官学合同シリコンバレー研修を実施

8/24 (日)

スタートアップ企業やIT企業が密集するアメリカのシリコンバレーにおいて「産官学合同シリコンバレー研修」を開催し、学生11名と企業参加者7名の計18名が参加しました。研修では、現地在住の日本人起業家などによる講義やディスカッション、AppleやGoogleなどのテック企業のVisitor Centerや、現地企業、大学への訪問など多彩なプログラムを実施しました。グループごとに設定した課題の解決策を探る中で、日本とは異なる価値観や考え方に触れ、参加者は自身の成長と何事も proactive (積極的な、前向きな) に行動するマインドセットを実感し、密度の高い、有意義な研修となりました。



★第8回公立小松大学祭「青松祭」を開催

10/18-19 (土・日)

第8回公立小松大学祭「青松祭(せいしょうさい)」を中央キャンパスおよび小松駅前市民公園で開催しました。今年のテーマは「翔ける!小松Revolution」。来場者の皆さまに「革命的な体験をお届けする」という意味が込められています。脱出ゲームや縁日、学科紹介ブースなどの多彩な催し物に加え、サークルによる模擬店がずらりと並び、終始賑わいを見せました。また、小松駅前市民公園の特設ステージでは、ダンスサークルや軽音サークルによるパフォーマンスの他、お笑いライブ等も行われ、来場者を楽しませました。



ご寄附・ご寄贈一覧

下記のとおり、貴重なご寄附・ご寄贈を賜りました。深く感謝の意を表しますとともに、本学の教育・研究活動のさらなる発展のため、有効に活用させていただきます。

株式会社伊藤電機様より、創業100周年記念事業の一環として、図書充実を目的としたご寄附の目録を賜りました。購入した書籍は中央第2キャンパスの開架書庫にて学生向けに貸し出しを行っています。



贈呈式の様子(向かって左が株式会社伊藤電機代表取締役 伊藤 唯司 様)

三代 仲田 錦玉 様より、文化および伝統的工芸品の振興を目的として、九谷焼作品2点をご寄贈いただきました。作品は、中央第2キャンパスの会議室および応接室に展示しています。



白粒深鉢「宇宙」(二代 仲田 錦玉 作)
 白金盛白粒合子「清麗」(三代 仲田 錦玉 作)

洋画家の西房 浩二 様より、多くの方々へ作品を鑑賞する機会を届けたいという思いから、自作作品「薔薇のカーディガン」をご寄贈いただきました。なお、作品は、中央第2キャンパスの応接室に展示いたします。



贈呈式の様子(中央が西房 浩二 様) 「薔薇のカーディガン」

理事長・学長 退任のご挨拶

公立小松大学が開学した平成30年4月から8年間、本学の発展のために尽力してきた
理事長 石田 寛人と学長 山本 博が令和8年3月をもって退任いたします。退任にあたり、ご挨拶申し上げます。

皆様、本当にありがとうございました。

3月末日の公立小松大学理事長職の退任を目前にして、私が申し上げられるのは、この一言のみであります。今から10年あまり前、小松市に四年制大学を設立する機運が高まり、準備を重ねて、平成30年4月に公立小松大学が開学しました。本学は、小松短期大学とこまつ看護学校の歩みを踏まえ、地域に根ざしつつ、全国と世界に向けて発信する新しい教育研究機関として出発しました。

以来、本学は希望に燃える若い皆さんの学びの場として歩みを重ね、大学院博士前期課程、博士後期課程を設置するなど教育研究体制の充実を図ってまいりました。コロナ禍や自然災害という困難にも直面しましたが、その都度、学生と教職員が心一つにして乗り越え、有為な人材を世に送り出してまいりました。学生のたゆまぬ努力と成長、教職員の献身的な尽力があってこそその成果であります。

さらに、大学設置者たる小松市当局をはじめ関係行政機関的確なご支援、小松市民、近隣の市町の方々の熱いバックアップ、企業や医療機関等各種団体の強力なサポート、金沢大学をはじめとする関係諸大学からの温かいお力添え、そして我々が直接には知り得ないような多くの方々との協力で、本学の今日があると存じます。本当にありがとうございます。

人が集い、学び、巣立ち、また新たな世代へと受け継がれていく中で、私もまた職を退きます。本学が小松学問所の伝統薫るこの地に根ざし、全国そして世界へ発信する教育研究機関として、今後さらに発展していくことを確信し、心より御礼申し上げます。

理事長 石田 寛人

愛児愛校愛地

2017年6月、大学設置審査委員会による実地審査で、審査委員から「学長予定者の存念を問う」と問われました。これに応えたのが、「愛児愛校愛地」。「児」は学生の皆さん、「校」は大学、「地」は地域。これが、本学を担当するにあたってのわたしの初心となりました。

平等と理想

わたしの専門は医学。教育と医療はよく似ています。公平公正、これが教育者の立ち位置で、教育も生活支援も学生目線で行わねばなりません。ヒポクラテスは、奴隷も自由人も差別しませんでした。日本に西洋医学を導入したポンペは、「医師はよるべき病者の友である」と教えました。教育と医療のもう一つの共通点は、理想主義です。常に最善を求め、妥協しない。学生の皆さんを友として、理想の旗を掲げつづける。8年間で多少ほころびもしたかもしれませんが、その旗の下、大学および大学院創業の偉業をともに成し遂げてくれた学生の皆さんと職員の皆さんに感謝してやみません。

総合知

本学大学院研究科の名称は、「サステイナブルシステム科学」です。当初文科省へは「サステイナブル・ソリューション」との名称を申請したのですが、却下されました。ソリューションには、「解決」という意味とともに、「融合」という意味もあります。公立小松大学は総合大学。本学に学び来たり、学び去る皆さんには、学部・学科・専攻の垣根を越えた、はばひろい学修と交流を通して、総合知を備えたマルチなポテンシャルを培っていただきたいと思っております。絶え間なく変化する世界と時代を生き抜く力になること必定です。

学長 山本 博



青松祭実行委員と
(令和7年10月)



教員紹介

KOMATSU UNIVERSITY



やまだ あきひろ
山田 昭博 准教授
(臨床工学科)

Akihiro Yamada

未解明の「フォンタン循環」を解き明かす

私たちの研究チームは、フォンタン手術を受けた患者さんの血液循環を新しい視点から解き明かす研究に取り組んでいます。フォンタン手術は、生まれつき心臓が十分に働かないお子さんのために行う外科治療です。しかし術後「フォンタン循環」は通常の血液循環とは大きく異なり、その仕組みは十分に解明されていません。そこで私たちは、この特殊な循環を再現する「循環シミュレータ」の開発に取り組んでいます。

体内の血流や圧力変化を水力学的なシミュレータとして定量的に再現することで、これまで見えなかった現象を少しずつ明らかにすることができています。さらに将来的には、形状記憶合金を用いた人工筋肉アクチュエータを応用し、小児向けの小型・軽量の肺循環補助デバイスの実現を目指しています。心臓移植以外に選択肢が限られていた患者さんに新たな



フォンタン循環と補助デバイス

研究者を志したきっかけ

治療の可能性を示し、術後の生活の質向上に貢献することが目標です。

人工弁の精巧な構造と、その仕組みで患者さんの生命を支えられる技術に強い感銘を受け、「医療と工学をつなぐ研究」に魅力を感じました。やがて、人工心臓の世界に関心が広がり、大学院では人工心臓や循環器治療デバイスの研究に取り組みました。博士(医工学)を取得後も研究を継続し、人工心臓をはじめとする循環器系医療機器の開発に従事しました。医師、工学系研究者、臨床工学士等、多様な専門性をもつ仲間と協力して進める研究は、常に新しい発見と刺激に満ちたものでした。現在はこれまでの経験を生かし、教育と研究の両面に力を注いでいます。教育を通して次世代の人材を育てながら、研究を通して新しい医療の可能性を切り開いていきたいと考えています。

臨床工学科で育む実践力

本学の臨床工学科では、人工心臓や人工呼吸器などの操作技術だけでなく、その原理や安全性を深く理解する教育を重視しています。最新の人工心臓に触れる実習や、医療機器を分解・再組立する体験を通して、本質を学ぶ機会を提供しています。知識と実践力を兼ね備え、医療の最前線で活躍できる人材の育成を目指しています。

未来の医療を切り拓くために

医療の最前線で活躍する臨床工学士は、単に機械に強いだけでは務まりません。状況を冷静に判断し、必要な技術を自分の手で身につけ、患者さんのいのちを支える確かな力が求められます。その力を育てるために私が大切にしているのは、「つくろえる喜びを知る」「失敗を恐れぬ」「きつくてできると信じる」等の「モノづくり十戒」です。

私の休日

holiday



休日には、生のコーヒー豆を自分で焙煎し、その日の気分に合わせて一杯を楽しんでいます。豆の原産地や焙煎の度合い、ブレンド、挽き方、そして淹れ方によって、まったく違う味わいや香りになるところが、とても面白く、飽きることはありません。昨年は大学祭でコーヒーストップを出店しました。